

施策マネジメントシート1(21年度目標達成度評価)

作成日 平成 22 年 6 月 30 日
更新日 平成 22 年 7 月 23 日

総合計画体系	政策No.	4	政策名	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり	施策統括課	生涯学習課	施策統括課長名	西川正則
	施策No.	20	施策名	生涯学習の推進	関係課	学校教育課、人権啓発教育課		

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等
・市民
・市外からの通勤・通学者

② 意図(対象がどのような状態になれば良いのか)
生涯に亘って目標・目的を持ち、学習やスポーツを行っている

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) * 数字は記入しない

名称	単位
A 人口	人
B 市外からの通勤・通学者	人
C	

④ 成果指標(意図の達成度を表す指標) * 数字は記入しない

名称	単位
A 目標・目的を持って実際に学習やスポーツを行っている人の割合	%
B	
C	
D	
E	
F	

成果指標の測定企画(実際にどのように実績値を把握するか)

設問:「あなたは目標・目的を持って実際に学習やスポーツを行っていますか?」
選択肢:①週に2回以上行っている、②週に1回行っている、③月に2、3回行っている
④月に1回行っている ⑤ほとんど行っていない

※「学習やスポーツ」とは、学校や地域社会の中で行われる組織的な学習活動だけでなく、個人的なスポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動なども含みます。
(目標・目的を持って実際に学習やスポーツを行っている人の割合=①~③を回答した人/全回答者数)

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
対象指標	A 人	見込み値				53,909	54,518	55,124	55,732	
		実績値	52,085	52,695	53,304	54,047	54,407	54,856		
	B 人	見込み値			14,951	15,756	16,561	17,366	18,171	
		実績値	(H7)6,094	(H12)10,121	(H17)11,575	(H17)11,575	(H17)11,575	(H17)11,575		
成果指標	A %	見込み値				41.0	41.3	41.6	42.0	
		実績値	未把握	未把握	40.8	42.5	40.0	37.0		
	B	見込み値								
		実績値								
	C	見込み値								
		実績値								
D	見込み値									
	実績値									
E	見込み値									
	実績値									
F	見込み値									
	実績値									
事務事業数		本数			71	72	73	76	72	
施策コスト	事業費	国庫支出金	千円			0	509	494	1,169	1,028
		都道府県支出金	千円			0	0	0	0	247
		地方債	千円			3,458	4,800	0	0	0
		その他	千円			20,734	18,112	20,100	40,192	37,815
		繰入金	千円			1,296	865	1,243	0	0
		一般財源	千円			320,016	313,235	287,104	259,750	271,004
	事業費計(A)		千円	0	0	345,504	337,521	308,941	301,111	310,094
	(A)のうち指定経費		千円			8,246	35,612	36,208	32,779	36,208
	(A)のうち時間外、特殊勤務手当		千円			772	787	814	693	814
	人件費	延べ業務時間	時間			23,697	23,733	24,100	20,157	20,121
人件費計(B)		千円			94,788	94,931	96,400	80,627	80,484	
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	440,292	432,452	405,341	381,738	390,578	

基本計画期間における施策の目標設定とその根拠(水準の理由と前提条件)

「A」の目標、目的を持って実際に学習やスポーツを行っている人の割合については、高齢化が進み、余暇を利用して学習やスポーツに親しんだり、ボランティア活動に参加する人が増えると予想されるが、生涯学習にあまり取り組んでいない若い世代の人口の増加を加味すると、22年度までは18年度の水準の40.8%と設定した。
目標値は、高齢化が進み、余暇を利用して学習やスポーツに親しんだり、ボランティア活動に参加する人が増えることに加えて、18年度以降に新春マラソン大会の実施、市民大学の開設、地域型スポーツクラブの拡充に取り組むなどにより若い世代が参加しやすい環境づくりに重点的に取り組むことで、平成22年度では、1.2%増加し、42.0%になると設定した。

基本計画期間における施策の方針

生きがいのある人生を送るため市民自ら生涯学習に取り組むやすい環境づくりにつとめる。

全庁横断課題『子育て支援日本一のまちづくり』との連携

- ・関連性あり
- ・子どもを地域で育てる学習環境づくり(総合型地域スポーツクラブ、地域自治会等)

施策マネジメントシート2(21年度目標達成度評価)

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)

ア)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)

- ・住民は、市主催又は地域主催等の色々な事業に参加する。学習意欲や運動意欲を持ち、自主的に取り組む。
- ・地域、団体は、地域でのレクリエーションや体育活動、各種講座を開催する。

イ)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)

- ・各種スポーツ大会の開催及び支援
- ・各種講座やニュースポーツの紹介など、生涯学習のきっかけづくりとしての事業の実施
- ・各種施設(公民館、図書館、体育館、グラウンド等)の管理・運営
- ・リーダーの育成

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?(平成22年度を見越して)

- ・高齢化が更にすすむことで、学習や自分の体力にあったスポーツに親しんだり、ボランティア活動に参加する人が増えると予想される。
- ・各種施設の老朽化がすすみ、維持管理費の増加が予想される。
- ・H22年度で「生涯学習のまち(都市)宣言」を行うことで、生涯学習やスポーツに関心を持ち取り組む市民が増える。
- ・社会情勢の変化に伴い、多様な状況に応じた図書の整備が更になると予想される。
- ・地域では、レクリエーションスポーツの実施が増えているが、今後もこの傾向は続くと思われ、種目ごとに必要な器具や用具の備えが必要になってくる。

③ この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?

- ・市民から、各種スポーツ教室の内容拡充の要望が多い。
- ・団体から、施設利用規定(申請者側の予約辞退に伴う使用料返還関係)の見直しを行って欲しいとの要望がある。(総合政策審議会意見)
- ・平成22年度の「生涯学習のまち」宣言に向けて、市民の意識の高揚を図る取り組みをすすめる必要がある。
- ・文化・芸術の指標が「生涯学習の推進」に入っているのはおかしい。市民の目線からいえば歴史・伝統・文化の施策に入れるべきである。
- ・施策の評価で、経済的な不況が直接指標に影響したと捉えるのは短絡すぎであり、失業による時間の精神的なゆとりがなくなっているとは思いますが、もう少し詳細な分析が必要である。
- ・本施策の目的として、学習とスポーツの両方が一緒では大雑把すぎる。せめて学習とスポーツは分けて考えるべきであり、次期第2期基本計画の策定で検討する必要がある。
- ・関係課に健康づくり推進課や高齢者支援課も加え、社会人の健康づくりのためのスポーツとの連携を図る必要がある。(議会の意見)
- ・幼年期からの読書習慣を身に付けさせる施策を充実すべき。
- ・図書館やスポーツ施設を利用したことのない市民をいかに足を向けさせるか検討していただきたい。
- ・施策の意図について、学習とスポーツを別けて考えるべき。
- ・市民から、図書館の開館時間(特に夏場)を早めてほしいとの意見がある。
- ・市民ワークショップで、人材バンクを作って、生涯学習に活用したらとの意見や、転入者に特技を聞いて生涯学習に活かしたらどうかなどの意見があった。また、ボランティア意識には地域差があるとか、ボランティアに消防団、老人会、子供会が連携をとって活動したらどうかなどの意見があった。
- ・市民ワークショップで、生涯学習の申し込みが特定の人にかたよる事があるのではとの意見や、生涯学習を広げて促せるのか、深さで促せるのか課題であるとの意見があった。また、スポーツに取り組む人は、若い人が多いが文化活動は高齢者に多い傾向があるとの意見があった。
- ・ニュースポーツ(ペタンク、カローリング他各種スポーツ)の振興を図るべき。
- ・旧町に囚われず、市全体のスポーツ大会を実施し、旧町間の交流を図りながら生涯学習を推進すべき。

4 施策の評価

① 施策の目標達成度21年度目標と実績との比較

<p>A → × 【 目標・目的を持って実際に学習やスポーツを行っている人の割合 】</p> <p style="padding-left: 20px;">: 目標値41.6%に対し実績値37.0%であり、達成度は88.9%であった。</p> <p>B → 【 】</p> <p>C → 【 】</p> <p>D → 【 】</p> <p>E → 【 】</p> <p>F → 【 】</p>	<p style="font-size: small;">※左記の背景として考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)</p> <p>市民アンケートによる数値であり、不況等社会状況の変化が影響し生涯学習の取り組みにも影響が現れ施策目標が達成できなかった。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※○:目標達成 △:目標をほぼ達成(-5%程度) ×:目標を未達成

② 施策の振り返り(施策の方針、全庁横断課題との連携の達成度等)

- ・新型インフルエンザの影響で市民健康カントリーマラソン大会は中止となったが、その他の予定された事務事業による学習及びスポーツの機会の提供は実施できた。また、内柴旗少年少女柔道大会を開催した。
- ・3月開催の子どもフェスティバルでは竹迫初市と同日開催で両企画とも盛況に行うことが出来た。
- ・事務事業貢献度評価の結果では、平成21年度施策の成果を向上させるために最も貢献した事務事業として、春ウォーキング大会開催事業・トレーニングルームインストラクター配置事業が位置づいた。

③ 施策の課題(基本計画期間を見据えて、どのような課題を解決していかなければならないか)

- ・学習、スポーツを通じた仲間づくりをすすめる。
- ・ニーズに合ったスポーツや学習の情報・機会の提供に努める。
- ・老朽化に伴う施設の改修に取り組む。
- ・夏休みの子どもの自主学習の場の提供に取り組む。

施策マネジメントシート2(21年度目標達成度評価)

5 施策の20年度結果に対する審査結果

①政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて・・・平成22年7月13日)

- ・生涯学習のまち(都市)宣言は実施するのか再度検討をする
- ・基本的なコミュニティのあり方の検討と合わせて施設改修計画の検討を行う。

② 総合政策審議会での指摘事項(平成22年8月10日、18日、26日まとめ)

- ・目標・目的を持って実際に学習やスポーツを行っている人の割合が下がったのは、不況の影響というだけでは無理があるので、詳細な分析が必要である。

③ 議会の決算審査における指摘事項(平成22年9月日)

- ・コミュニティーのあり方を早急に検討すること。
- ・各種講座の啓発活動に努めること。
- ・スポーツイベントを開催することにより、旧町間の交流を図ること。

6 次年度に向けた取り組み方針

● 政策推進本部 平成23年度合志市経営方針(平成22年10月25日)

21. 生涯学習の推進

1. 市民の意見を聴きながら「生涯学習のまち(都市)宣言」の検討を進める。
2. コミュニティーのあり方の検討を進める。
3. より多くの市民が講座に参加するように、各種講座の啓発活動に努める。

22. 生涯スポーツの推進

1. 様々なスポーツイベントを開催することで、市民の交流を図る。
2. より多くの市民が講座に参加するように、各種講座の啓発活動に努める。

基本事業名	67 学習・スポーツの啓発		基本事業担当課	生涯学習課					
対象	学習やスポーツに取り組んでいない市民		意図	学習やスポーツに取り組むことの必要性を認識できる施設や学習内容を知ることができる					
成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A	学習に取り組んでいないが今後取り組んで見たいと思う市民の割合	目標値				58.0	58.5	59.0	60.0
		実績値			57.5	65.7	61.4	56.0	
B	スポーツに取り組んでいないが今後取り組んで見たいと思う市民の割合	目標値				61.8	62.8	63.3	63.8
		実績値			60.8	63.4	63.1	62.0	

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

学習について、目標値については、合併後、学習施設については西合志ではコミュニティ単位で取り組まれていたが、身近な学習施設だけでなく、市全域の学習施設の利用により、幅広い取組みにつなげてもらうように啓発していくこと、22年度には60.0%と設定した。
スポーツについては、目標値については、高齢者向けのスポーツ体験講座を強化、拡充すること、対決型スポーツから軽スポーツに重点が移行してきており、気軽に参加できるようになるので、19、20年度では、1%程度の伸びを期待できる。その後は0.5%程度伸びると考え、22年度では、63.8%と設定した。

9. 基本事業の21年度の振り返り(目標達成度評価)と23年度に向けての課題

長引く経済不況による不安から生涯学習に対する意欲の低下が原因と考えられる。今後は市民大学やスポーツ体験教室等により生涯学習の啓発に努める。

基本事業名	68 学習やスポーツへの参加機会の提供		基本事業担当課	生涯学習課					
対象	市民、市外からの通勤・通学者		意図	学習やスポーツに参加する機会がある					
成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A	学習に親しむ機会があると思う市民の割合	目標値				45.3	45.5	45.8	46.0
		実績値			45.1	50.8	47.3	48.1	
B	スポーツに親しむ機会があると思う市民の割合	目標値				42.9	43.3	43.6	44.0
		実績値			42.6	46.5	44.3	45.2	

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

学習について、目標値については、個々人の状況もあるので、大きくは伸びにくいですが、身近な学習施設だけでなく、市全域の学習施設の利用や新しい学習メニューの開設により、22年度の目標値を46.0%として設定した。
スポーツについては、新しい学習メニューの開設により参加機会の拡充を図ることで、22年度の目標値を44.0%と設定した。

9. 基本事業の21年度の振り返り(目標達成度評価)と23年度に向けての課題

今後も市民のニーズにあった、事業・大会の開催により学習機会の提供に努める。

基本事業名	69 生涯学習団体やスポーツ団体の育成		基本事業担当課	生涯学習課					
対象	取り組んでいる市民		意図	・学習やスポーツに取り組む仲間ができる ・学習やスポーツリーダーになる					
成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A	活動している生涯学習・スポーツ団体数	目標値				380	384	387	390
		実績値			376	297	338	338	
B	市内在住のインストラクター数 ／生涯学習施設で各種講座を担当しているインストラクター数	目標値				81.0	82.0	83.0	84.0
		実績値			79.8	79.8	57.4	57.4	57.4

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

団体数の微増と指導者育成に力点をかけた事業の展開による指導者増加を見込む。

9. 基本事業の21年度の振り返り(目標達成度評価)と23年度に向けての課題

活動している生涯学習・スポーツ団体数、市内在住のインストラクター数／生涯学習施設で各種講座を担当しているインストラクター数はともに変化は見られなかった。今後もニュースポーツや新しい生涯学習講座を推進し目標値達成を目指したい。

基本事業名	70 生涯学習・スポーツ施設(環境)の整備		基本事業担当課	生涯学習課					
対象	市民、市外からの通勤・通学者		意図	活動する場がある					
成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A	学習に親しむ施設が整っていると思う市民の割合	目標値				73.9	74.2	74.6	75.0
		実績値			73.6	74.1	74.6	57.0	
B	スポーツに親しむ施設が整っていると思う市民の割合	目標値				73.4	74.0	74.5	75.0
		実績値			72.9	74.5	75.1	57.3	

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

施設の拡充等困難な状況であり、各種事業の企画などで啓発を行い従来の施設を周知することを条件として目標値を微増で設定した。

9. 基本事業の21年度の振り返り(目標達成度評価)と23年度に向けての課題

市民アンケートの設問設定の変更により、大幅な実績値の低下が見られるが、前回同様「整っていない」とした回答率に変化は見られないことから環境整備は整っているとされる。

快適に利用できるよう各施設の維持管理に努めた。今後は、老朽化した施設の改修を計画し、親しみやすい施設の整備に努める。